

## FLORA of KOCHI

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

No.28

## 探してみよう！ 春編

## 四国にはない?!

ケチドメグサ (セリ科) *Hydrocotyle dichondrioides* Makino

ケチドメグサは、九州・琉球、台湾に分布するとされていましたが、2009年に紀伊半島から新産報告されました(藤井ほか 2009)。

紀伊半島で本種が確認された地域は、いくつかの暖帯・亜熱帯性の植物についても東限・北限分布が知られているそうです。一方で、確認された場所が神社であったことなどから、人為分布の可能性があるとのこと。また著者は、四

## 表 ケチドメグサの近縁種との相違点

	茎	葉の大きさ	葉の表面	葉の毛	葉柄の毛	果実の長さ
ケチドメグサ	全体がはう	径 0.5-1.5cm	光沢無	裏面のみ	反曲する短縮毛	約 0.8mm
チドメグサ	全体がはう	径 1-1.5cm	光沢有	なし	無毛	約 1mm
ノチドメ	上部は斜上する	径 2-3cm	光沢無	あり	変異に富む	約 1.5mm

[参考文献] 藤井伸二・吉田國二・山本和彦・市川正人, 2009. ケチドメ (セリ科) を紀伊半島から記録する. 分類 9 : 173-177

国のみ分布が欠失する例は稀であるとし、「分布空白地域の四国(とくに離島や半島先端部)について精査を行い、この問題を解決する必要がある」と述べています。高知県でこれまで採集された標本を再度調べたところ、ケチドメグサの特徴をもつ標本はありませんでした。

南方系の植物の北上か、人為分布か? この謎を探ってみましょう!

## 春の水田を飾る蛍光色の草

ニセコガネギシギシ (タデ科)

*Rumex trisetifer* Stokes

ニセコガネギシギシは、2001年に芸西村と安田町で採集されて以来確認されておらず、高知県レッドリスト2010年改訂版では情報不足(DD)とされてきました。

昨年の環境省第3次レッドリスト見直しのための調査で、芸西村と安田町の水田でコギシギシと混生して生育しているのが確認されました。高知県ではコギシギシと同じく田植え前の水田に生育するため、見落とされていたのかもしれませんが。

ニセコガネギシギシは、コギシギシと比べて果実が密につき、全体が蛍光色のような明るい黄緑色であるため、見慣れれば遠くからでも確認できます。コギシギシの分布する日高村から奈半利町の間では、混生している可能性がありますので、3~5月の耕作前の水田を観察してみてください。 ※2枚の写真は鴻上泰氏にご提供頂きました。



果実の縁のトゲが長く  
一対であることが特徴。



全体は蛍光色のような明るい黄  
緑色で、遠くからでも目立つ。

## 「環境省第3次レッドリスト見直しのための調査」の報告

環境省レッドリスト第3次改訂のための調査が1月で終了しました。調査にご協力頂いた皆様方には厚く御礼申し上げます。

調査のために205種について、標本データを元に1,653箇所の調査リストを作成しました。そのうち、本年1月までに515箇所で調査が終了しています。その結果、多くの箇所で、「生育確認できず」という回答がありました。確認で

きなかった理由には様々な要因があると思いますが、植物園の持つ標本データよりも実際はずっと減ってしまっている可能性があります。一方で、調査表を作成していなかった123箇所の新たな自生地の情報もよせられています。

まだ調査予定箇所の3分の2が終わっていません。今後も調査を継続したいと考えていますので、皆様どうぞご協力をお願い致します。



# 高知県の植物 ニュース

高知県の県新産となるヤマハンショウヅル、ヒュウガセンキュウが確認されました。それらの植物の特徴と発見の経緯をご紹介します。また、再発見種のホクチアザミをご紹介します。

## ■ 分布の北限変更!? ヤマハンショウヅルの発見

一昨年宿毛市の国有林内で、植物誌調査ボランティアの竹内清治氏によってコルク質の翼をもつ変わったつる植物が発見されました。それは高知県では今まで見たことのない植物で、葉は常緑でクチュラ層が発達していることから、南方系の種であると推測されました。しかし、残念ながら採集された標本には花がなく、また過去の文献記録もないことから種を決めかねていました。

昨年 12 月に花の付いた標本を採集して頂き、その後自生地の管理者である四国森林管理局の職員の方々と現地調査を行いました。南方系の種類であろうということで、四国森林管理局から屋久島森林管理署と屋久島自然環境保全センターに写真で問い合わせた結果、「ヤマハンショウヅルではないか」とご回答頂きました。標本を確認したところ、「花糸にしわがよる」という特徴があったことから、謎の植物はヤマハンショウヅルであることがわかりました。

ヤマハンショウヅルは九州南部・屋久島・種子島、中国南部、台湾に分布し、これまで宮崎県が分布の北限とされていました。今回の発見で北・東限は高知県になります。

高知県の自生地は下層植生の少ない 50 年生のヒノキ人工林です。つるは太いもので径約 4 cm になり、林冠まで達し、開花・結実していることから、発芽してからかなりの年月が経っていることが予想されました。また、つるの太さが異なる株もあることから、種子による繁殖もしているようですが、今年の 1、2 月に行った現地調査では、実生や幼個体を見つけることはできませんでした。今後は、果実の熟期や種子の飛散時期や距離などについても継続的に調査していきたいと考えています。



写真提供：竹内清治氏

林冠で開花するヤマハンショウヅル

【標本】宿毛市 竹内清治 FOS-001197,002139

### ヤマハンショウヅル (キンポウゲ科センニンソウ属) *Clematis crassifolia* Benth.

常緑のつる性木本で、新枝は紅紫色。葉は光沢のある厚い革質の一回三出複葉で、小葉の先は鈍く全縁。花は 11 月から 1 月に上向きに咲き、先が尖った白い 4 枚の萼片をもちます。名前にハンショウヅルとつきますが、実際は常緑の丈夫なセンニンソウのようなイメージです。薬は長さ約 1.5mm で、花糸（おしべの柄状の部分）にしわがあるのが特徴です。



写真提供：竹内清治氏

花糸にしわがよるのが特徴。おしべの柄の部分の部分が平滑でないの見える。



つる性木本で、茎にはコルク質の翼が発達する。



つるの根元。数力所で地面に根を下ろしている。

## ■ ヒュウガセンキュウ（セリ科シシウド属） *Angelica minamitanii* T. Yamaz.

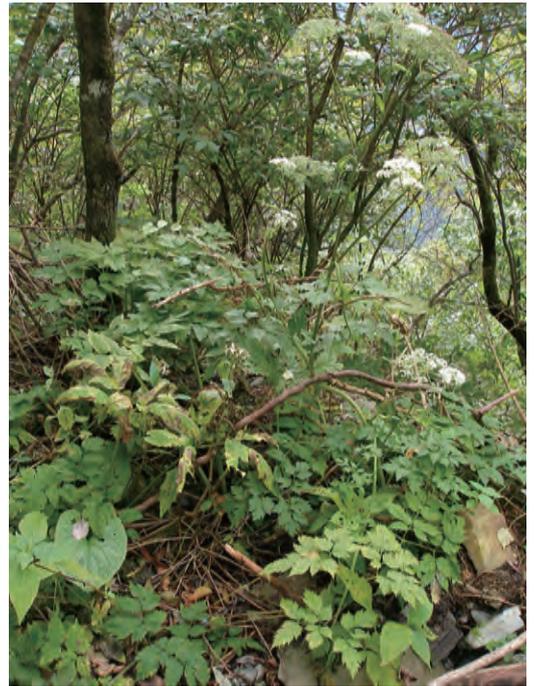
高知県植物誌では山地のみで確認されているセリ科シシウド属の植物はミヤマノダケとシラネセンキュウだけでした。

昨年、広島県在住の高杉茂雄氏から「瓶が森林道のシラネセンキュウはオオバセンキュウあるいはヒュウガセンキュウに当たるのでは」というご指摘があったと調査に同行していた猪野律さんから連絡を受け、標本採集・分布調査を行いました。その結果、林縁に生育するシラネセンキュウ（としていた個体）のうち、葉が垂れてつくという特徴を持つものがありました。

既存のシラネセンキュウの標本と比較したところ、植物誌で「葉の表面が無毛のタイプ」とされていたものがこれにあたり、いずれも瓶が森林道付近で採集されたものでした。

これらの個体について、セリ科の系統解析をしている京都大学の東浩司氏に DNA 解析を依頼したところ、ヒュウガセンキュウと遺伝的に同じグループに入るとの回答を頂きました。ヒュウガセンキュウは、宮崎県総合博物館（当時）の南谷忠志氏が宮崎県で発見したオオバセンキュウに形態が類似した種で、現在は宮崎県と広島県に分布することがわかっています。

なぜ本種が四国の山地に分布するのか、分布の範囲はどこまでなのかなど、今後さらなる研究が必要です。



自生地でのヒュウガセンキュウ

【標本】 本川村瓶が森林道 鴻上泰・坂本彰・前田綾子・田辺由紀 FOS-001890,001891；田畑沙季 No.655；稲垣典年 FOK-08695

【参考文献】 山崎敬．2001．日本のセリ科植物Ⅲ．植物研究雑誌 **76**: 307-320；南谷忠志．1997．宮崎県産植物ノート (3) シシウド属の新植物～ヒュウガオオバセンキュウ．宮崎県総合博物館研究紀要 **20**: 69-76

### 表 ヒュウガセンキュウとオオバセンキュウとの比較

	ヒュウガセンキュウ	オオバセンキュウ
小葉	卵形～長卵形	披針形～長披針形
葉の鋸歯	鈍い2～9の粗い鋸歯	鋭尖頭の細鋸歯
果実の翼	1～1.2mm	1.5mm

## ■ ホクチアザミ（キク科トウヒレン属） *Saussurea gracilis* Maxim.

山中（1978）の文献情報のみで、標本が採集されていなかった植物の一つ「ホクチアザミ」が、昨年10月に梶原町で中平勝也氏により発見されました。高知県レッドデータブック（2000）では絶滅危惧Ⅰ類（CR）でしたが、高知県レッドリスト2010年改訂版では情報不足（DD）となっていました。

中平氏より送られてきた写真を見た瞬間「ホクチアザミでは!？」と思い、すぐに標本を送って頂き確認しました。現存が確認されている県内のトウヒレン属植物は、ヒメヒゴタイなど7分類群、そこにホクチアザミが加わることになりました。残るミヤコアザミは未だ現存が確認されていません。いずれの種も生育地が限られ、またシカの被食による減少も危惧されています。

本州（長野県以西）・四国・九州に分布する多年草で、草丈は約50cm。根生葉は長い三角形で基部が心形となり、葉の裏がワタゲに覆われ白いことが特徴です。茎葉は小さく、総苞は筒形でくも毛が生え紫色を帯びます。花は8～10月、ピンク色。



くも毛が生える総苞



ホクチアザミの標本

【標本】 梶原町 中平勝也 FOS-001904

## ■ 平成 24 年度開講 植物分類学セミナー

平成 24 年度から、植物分類学セミナーを開講します。基礎的なことを中心に、分類学の楽しさを知っていただくほか、標本作製のコツなどを身につけて頂ければと思っています。

毎年同じ箇所で見える花を見る生態学的楽しみ方もいいですが、これからは種の同定能力に磨きをかけて、植物のライフリスト（生涯を通して見た種の数）にこだわって目標を立てるのもいいのではないのでしょうか。同定のチャンスが 1 年に 1 回わずかな期間しかない植物もあります。見逃せませんよ！

セミナーへの参加申し込みは 1 ヶ月前から受け付けております。メール (ayakom@makino.or.jp) あるいは FAX (088-882-8635)、ハガキのいずれかでお申し込み下さい。大変申し訳ございませんが電話での受付は行っておりません。定員は 30 名。定員に達し次第締め切らせていただきます。

〈平成 24 年度予定〉

◆ 分類学セミナー (10:00~12:00 本館アトリエ実習室)

日程	対象種	講師
4月15日(日)	スミレ属	細川公子氏*1
5月20日(日) 日程変更の可能性有り	スゲ属	小山鐵夫
9月30日(日)	イネ科	茨木靖氏*2
10月28日(日)	キク科	藤川和美・鴻上泰氏*1
12月2日(日)	シダ	未定(調整中)

\*1: 土佐植物研究会、\*2: 徳島県立博物館

◆ 標本作製教室 (10:00~12:00 本館アトリエ実習室・標本室)  
6月17日(土)、9月1日(土)

## ■ 平成 24 年度からの調査について

平成 24 年度からは、高知県の絶滅種から情報不足種までの 946 種類について、順次調査を行っていきます。そして最終的には、高知県レッドデータブック改訂版を発行しようと考えています。

本年は主に情報不足の種の中から調査対象種を検出し、調査を始めたいと思います。情報不足種にはヤブマオやササの仲間のように近縁の種と区別が難しいもの、コケトウバナのように〇〇トウバナの幼個体と区別が付きにくいものがあります。そうした種の特徴を発信していきたいと考えています。

なお、調査にご協力頂ける方を随時募集しております。ご登録頂いた調査員の方には腕章と調査対象種リストおよびそれらの種の特徴を取りまとめたものをお渡しできるよう準備しています。どうぞよろしくお願い致します。

## ■ 高知県植物誌の訂正

p.22 (2) 暖温帯の植物

15 行目 ハカマカズラ → 削除 (足摺岬に生育地あり)

p.99 ミドリヒメワラビの産地

【標本】本川村, 大平豊 10800 → 土佐町, 大平豊 10800 (大平氏より訂正)

## ■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日 (休日の場合はその翌日) に植物研究課の藤川、前田、田辺 (旧姓倉橋) が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。

四国内で採集された標本につきましては、FOS (Flora of Shikoku) の通し番号をつけて管理しています。エリア新産の植物や見たことがないといった植物がありましたら、押し葉状態にしたものをお送り下さい。なお、日本各地の標本も受け付けていますので、よろしく願い致します。

## ■ 編集後記

今年の冬は大変寒かったですね。一部では 26 年ぶりの寒さだったようです。それでも山野の植物は少しずつ春の唄を歌い始めています。この寒さを経験した植物はどんな挙動をみせてくれるのでしょうか、楽しみです。

本号は、高知県新産の 2 種と再発見種 1 種について紹介しました。植物誌ができた今、もう新しいことなど見つからないのではと思ってしまいましたが、これからはスタートです。ヤマハンショウヅルやヒュウガセンキュウなど、九州や中国地方などの近隣県や琉球・アジアに分布するものが実は高知県にも分布することがあります。これからは高知県内の植物の研究だけではなく、広く周辺地域の研究にも目を向け、情報発信をしていかななくてはならないとつくづく感じます。

ボランティアの皆さんや近隣県の方々との情報交換やネットワークも必要不可欠です。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本号におきましては、竹内清治氏、高杉茂雄氏、猪野律氏、中平勝也氏、坂本彰氏、鴻上泰氏、京都大学の東浩司助教、四国森林管理局および四万十森林管理署の皆様がたにご協力をいただきました。調査や情報提供にご協力頂きました皆様ありがとうございます。

※ FLORA OF KOCHI では皆様からの原稿を募集しております。トピックス、高知県新産・新産地の発見等がございましたら、ぜひご執筆をお願い致します。

No.28 の発行担当：前田綾子・田辺由紀・藤川和美